2019 年度北海道サケネットワーク総会　要録

日　時　　2019 年 5 月 18 日（土）13:00~13:45
場　所　　札幌エルプラザ・環境研修室
出　席　　14 会員団体（会員総数 25 団体）

開会の挨拶　　阿部周一 代表

サケネットワークの活動については，日頃からお世話になっている．本日は夏日の暑い中，ご多用中にも関わらず出席いただいたことに感謝する．年号が平成から令和に変わって最初の総会となる．議事は手元の資料に基づいて進める．予定の議事は報告事項，協議事項，情報交換となっているので，報告事項から始めたい．

議　事

【報告事項】

1　2018 年度の活動について

高橋壽一事務局次長より以下のように報告があった．

1) 2018 年度の総会ならびにサケ会議は，旭川地区の会員（あさひかわサケの会・大雪と石狩の自然を守る会）の尽力により，神楽公民館において，5 月 26 日（土）に開催された．また，翌 27 日（日）には，忠別川の産卵環境の視察と旭川市博物館の見学を目的とする現地見学会が実施された．
2) 会報 10 号が，浦野顧問の編集によって 5 月に発行され，ホームページ上にアップロードされた．本ネットワーク会員の活動が広く紹介されている．
3) ニュースレター55～58 号の発行（年 4 回：4 月，7 月，11 月，2 月）．寺島さんの編集力により，毎号楽しみなものが出来上がっている．
4) ホームページの充実. ホームページを見ればサケの全てが分かる貴重なものになっている．

【協議事項】

1　2018 年度収支決算報告および会計監査報告

2018 年度収支決算報告について，小川和宏事務局委員より，以下の資料にあるように，収入が 106,865 円，支出が 23,264 円，差引 83,601 円が繰越金であるとの報告があった．

≪収入の部≫

科　　目	予　算　額	決　算　額	摘　　要
前期繰越金	53, 865	53, 865	
会　　費	42, 000	53, 000	11団体
寄　　付	0	0	
合　　計	95, 865	106, 865	

≪支出の部≫

科目	予算額	決算額	摘要
手数料	2,000	860	郵便振替
通信費	5,000	2,518	郵送料
消耗品費	2,000	4,686	用紙・封筒事務用品
会議費	10,000	15,200	
会報費	0	0	
予備費	76,865	0	
合計	95,865	23,264	

（次年度繰越金　106,865－23,264＝83,601）

続いて，藤瀬雅秀監事より適正に執行・処理されているとの会計監査報告が行われた．

2018年度　会計監査報告

北海道サケネットワークの、2018年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）の会務、並びに会計の収支決算報告書について、関係諸帳簿などを監査した結果、適正に執行・処理されていると認めます。

2019年 4月 27日

監　事　藤瀬雅秀

監　事　佐藤信洋

以上について総会で承認するか否かが諮られ，異議なく承認された．

2　2019年度活動計画（案）

高橋事務局次長より以下の通り提案され，異議なく承認された．

1) 2019年度サケネットワーク総会および北海道サケ会議を，5月18日（土）に札幌において開催する．
2) 会報11号を発行する．実際には5月10日付けで会員に原稿が送られている．「国際サーモン年」の詳しい内容も紹介されており，今後，啓蒙する意味で貴重な会報になっている．
3) 身近な話題をテーマにして，ニュースレターを発行する（年度中4回を予定）．

なお，会報およびホームページについて浦野顧問より以下の発言があった．

11号は未だホームページに載せていない．内容について了解を受けずに載せたものがある．今回特に重視した北水研のホームページから引用している「国際サーモン年」，その他会員のホームページを見て紹介した活動など，内容に問題があれば一般向けに修正して載せる．原稿が届いていない方は浦野宛て

にメールで連絡してほしい.

現在のホームページは古典的なスタイルで作成している. リンク先には, 例えば高橋水産や佐藤水産のプロが作っているであろうホームページ, 豊平川さけ科学館が後押ししているサッポロ・ワイルド・サーモン・プロジェクトや市村さんの標津サーモン科学館のホームページなど, 若い方が新しい感覚で作っているものが多い. サケネットワークのホームページは古風な作り方になっており, そろそろ今のスタイルを変える時期に来ている. ホームページの構造, 作り方, SNS などに詳しい人に引き継ぎたい. 高齢化してきたホームページを若い人が見ても楽しめるスタイルにしてほしい.

3　2019 年度収支予算案

小川事務局委員（会計担当）より以下のように提案され，承認された.

≪収入の部≫

科　　目	前年度予算	19 年度予算	増　　減
前期繰越金	53,865	83,601	29,736
会　　費	42,000	42,000	0
寄　　付			
合　　計	95,865	125,601	29,736

≪収入の部≫

科　　目	前年度予算	19 年度予算	増　　減
手　数　料	2,000	2,000	0
通　信　費	5,000	5,000	0
消 耗 品 費	2,000	2,000	0
会　議　費	10,000	30,000	20,000
会　報　費	0	0	0
予　備　費	76,865	86,601	9,736
合　　計	95,865	125,601	29,736

4　役員改選

高橋事務局次長より，来年度が役員改選の年に当たるとの説明があり，2019 年度は昨年度と同様の布陣（ホームページに掲載中）で臨むことが了承された.

5　情報交換

総会に出席した各会員団体より，それぞれの活動について，現況報告があった.

道総研（隼野）：初めて参加する．4 月に中標津の道東センターから異動した．道総研はサケマス担当部門と内水面担当部門に分かれており，自分は内水面を担当してきたが，今回縁があってサケマスの担当になった．北海道のアキサケの状況は厳しい．昨年は一昨年より回復傾向がみられたが，来遊数は 3 千万尾を割り込み，ピーク時の半分程度にしか達していない．また，昨年は小型化が新たな問題となっている．私たちは原因究明と資源回復を目指し，様々な試験研究に取り組んでいく.

北水研（藤瀬）：さけます生産技術部でサケマスのふ化放流を担当している．昔は国が一義的に行なっていたが，今は国と民間で仕分けされている．国（北水研）はサケとマスを合わせて毎年 13,905 万尾を放流する計画である．今年は北海道西側の放流が終了，東側の放流は最終段階になっている．業務としては，河川や沿岸における放流稚魚調査，海洋環境調査，研究者と連携した活動，さらには国際サーモン年の広報への協力，ベーリング海調査への協力などがある．

サケのふるさと千歳水族館（高木）：初めて参加する．飼育員として 2 年目になる．春はサケの稚魚放流体験，6 月までは団体の受け入れ，秋は採卵体験の業務がある．海外の観光客も多く，タイの人にとって放流体験などはお得感があり，喜ばれている．また，展示を通じてサケなどの生き物の楽しさを伝える活動をしている．

標津サーモン科学館（市村）：科学館はサケマス自然産卵調査協議会と標津町で調査を行なった．民間ふ化場横の直線河道へ障害物を設け変化を持たせることで，発眼率を平均の 20%から 60%に回復させた．さらに，伊茶仁川は元々80%近い高い発眼率だったが，直線河道で同様の実験を行い，掘り起こし調査した結果 10%以上の向上が認められた．これら自然産卵が資源に繋がるかどうかが今後の鍵．昨年秋から NHK の“ダーウィンが来た”の取材があり，サケの産卵行動で敗けた雄が雌の体色になる様子を撮影した．海の動態の様子も含め，今年の 10 月か 11 月に放映予定．

浦野：昔，さけ科学館を舞台に，タモリが小宮山さんと 1988-90 年頃やった映像が流れたことがある．それを基に，さけ科学館がサケの産卵行動をホームページやパンフレットで紹介している．今回は，4K や 8K 画像を用い，色が変わる瞬間を捉えるなど，より面白くやってほしい．

市村：撮影は終了しているが，4K で撮っている．

高橋：大変興味深いお話だ．4K なら受像機が必要になるのでは．

豊平川さけ科学館（佐藤）：真駒内公園の熊対応で大忙しだった．サケの稚魚放流が終了し一段落．昨年，豊平川では 616 ヶ所の採卵床を確認．1,200 尾以上が溯上したと推定される．サッポロ・ワイルド・サーモン・プロジェクトの活動として，開発局，研究者，業者の方々と協力し，瑞穂大橋右岸の河床を掘り起こした結果，多くのサケの産卵を確認した．今年も平和大橋辺りで行いたい．自然産卵個体を増やしたいと思っている．

岩手大学（北村）：初めて参加する．昨年 10 月から，釜石のキャンパスで一期生となる水産コースの学生の受け入れがスタート．養殖部門，増殖部門，加工・マーケティング部門が活動．そのうち，養殖部門と増殖部門でサケを使った研究を進めている．増殖部門では，ふ化放流の効果を明らかにするためサケ稚魚の食性や生態の研究，岩手オリジナルのサケが溯上するモデル河川で遺伝特性の研究などを進めている．養殖部門ではサケやサクラマスの養殖を進めている．　今後，学生の増加に合わせて研究内容の充実を図っている．

十勝・帯広サケの会（伊藤）：5 月 5 日に十勝川の支流で 34 回目のサケ稚魚放流祭を行なった．約 70 人の親子が参加したが，気温が 29.1℃だったため熱中症に注意し，早めに解散した．新たに市内の小学校で放流希望があり，3,000 尾を持ち込んで 3 年生 140 人余りが学校横の小川に放流した．会の悩みとしては，会員の高齢化と人数の減少があり，若い後継者を育てていきたい．

大雪と石狩の自然を守る会（寺島）：あさひかわサケの会と共同して活動しており，二つの団体を合わせて報告する．旭川では石狩川に野生のサケを帰したいとの思いで，36 年前から活動を続けている．2003 年から帰ってきたサケの魚影が見られ，2011 年には群を確認した．旭川開建と共同の産卵床調査では，2012 年が 1700 床，2016 年が 100 床，2018 年が 300 床となった．サケが戻るのは本流と忠別川の 2 河川で，本流は 100 床，忠別川は 200 床を確認．石狩川本流は継続して河川改修を進めており，河床が変動している影響があるかもしれない．一通りの改修が終われば砂利環境なども良くなり，サケ産卵床の増加が期待される．現在，旭川ではこの二つのサケの会，旭川開発建設部，アイヌ文化保存協議会と協力して活動している．幼稚園，小学校，一般家庭に 5,000 粒のサケ卵を配布，20,000 粒を人工産卵床に埋めるなど，合わせて 25,000 粒の稚魚放流と埋設を行っている．2019 年は一番産卵床が少なかった 2016 年級群が 4 年魚で帰る年なので，その動向を見守っている．

札幌サケ協議会（高橋）：サケ会議の運営を中心に活動．今後の継続した活動を担っている．前身のサーモン協会が発案した“サケ会議”を続けるために，会の解散後も継続している．

＜総会の閉会，休憩の後，サケ会議が開催された．＞